



子どもや教職員が犯罪に巻き込まれない ために防犯器具の寄贈で支援を続ける

四條畷遊技業組合 (大阪府遊技業協同組合)

「生徒、園児に対する不審者侵入による
被害防止支援活動」事業



四條畷遊技業組合
組合長
徳山環治さん

近隣地域で起きた悲惨な事件を 繰り返さないために防犯活動に協力

2001年に大阪府池田市の大阪教育大学附属池田小学校で発生した小学生殺傷事件、および2005年に大阪府寝屋川市の寝屋川市立中央小学校で発生した教職員殺傷事件などを受けて、学校現場での安全を守る施策が全国的に講じられるようになってきた。しかし、その後も学校内や登下校時の路上で子どもたちが事故や事件に巻き込まれる不幸な事態が後を絶たない。

大阪府遊技業協同組合の支部組合の一つ、四條畷遊技業組合では、四條畷警察署の働きかけにより、2012年に四條畷市教育委員会、大東市教育委員会などとの懇談会に出席し、その席上で学童や教職員に対する犯罪被害防止活動の必要性が話題となったことから、その活動を支援する事業に取り組むことを決定した。同年10月には同組合から四條畷市と大東市内の小学校、幼稚園の計33校・園に、防犯器具のネットランチャーが各2台寄贈された。

この事業は現在も継続中であり、毎年、両市の小・中学

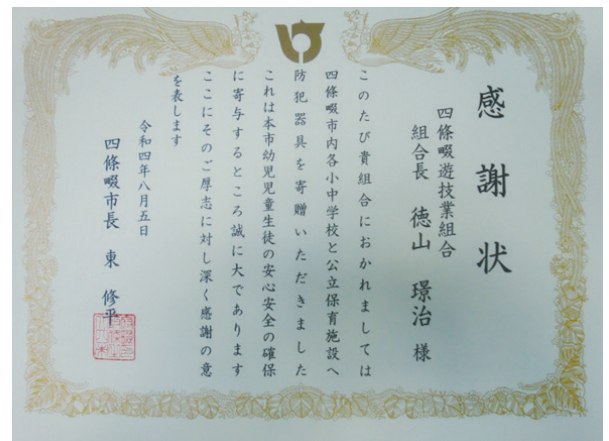
校、および幼稚園にネットランチャー、さすまた、カラーボールなどの防犯資材や器材が寄贈されている。また、それらの防犯資器材を活用し、警察の協力によって防犯訓練を実施するなどして、不審者の侵入による被害防止やその支援活動に取り組んでいる。

2022年度はその資金として60万円が同組合から拠出されたが、こうした活動は両市の広報誌やホームページなどで毎年、紹介されていることもあり、学校関係者に限らず、市民の認知度も高い。また、この事業開始以降、毎年、両市から感謝状が贈られている。

国や自治体だけに頼るだけでなく、地域の学校や子どもたちは地域住民の手で守る姿勢が大切である。そのためには地域を挙げて防犯意識を高める必要があり、そのための支援は地域で事業を営む企業にとっての責務と認識している。



寄贈した防犯器具で訓練をする教師



市長から贈られた感謝状